

# 吉澤さん、世界へ

武工新聞  
第45号



Technical  
News  
Paper

発行日  
12月20日  
発行者  
武工新聞部

## 全国総合文化祭で日本代表に選出 「美術で国際交流」

八月に宮崎県で全国総合文化祭が行われ、「THE WORLD」の製作を手がけた吉澤直也さんが福井県の代表に選ばれた。これにより吉澤直也さんは十二月十七日から十二月二十一日の五日間、韓国に行つて現地の高校生と交流を行い、合同で一つの作品を制作する予定だ。



↑吉澤直也さん(3-1)と受賞作「THE WORLD」

全国総合文化祭に福井県代表として参加した吉澤直也さん(3-1)が全国の代表として選ばれた。全国総合文化祭に出品した絵は、今年の一月から四ヶ月間かかって製作したものだ。この絵の出来栄には大変満足しており、「自信はある!」と笑顔で答えてくれた。驚いたことに最初はテーマが決まっていなかったそうだ。描いていくうちに次第にテーマが決まってきた。製作期間の四ヶ月の間は、学業に身が入らなくて大変だったと、苦笑いを浮かべていた。そんな吉澤さんが、代表として選ばれたことを一番伝えたい人は音楽関係の友達だという。なぜなら、その友達には自分が美術をしていることを知らないため、驚かせたいからとのこと。吉澤さんは、この絵を見た人の反応を考えて絵

を製作した。この絵には良く見ると、たくさん人の国の人間や建物が地球の大陸に描かれている。そこには、大陸のその位置にある有名な建物などが決まった順番で並んでいる。これにより、十の知識がある人と、百の知識がある人とは見た時の感想が違ってくるので、人それぞれの意見や感想、考え方が出てくるように考えながら製作したそうだ。そして、この絵を見るとときには落ち着いて観て欲しいと話してくれた。吉澤さんの絵を観てみた人は、一階の校長室前の廊下で観ることが出来る。吉澤さんは将来、時間に余裕があればこれからも絵を描き続けるとのこと。すばらしい作品に期待したい。

### 韓国へ

吉澤さんは、高校生国際文化交流事業の美術、工芸品部門分野に参加して韓国の高校生と交流を行う。

韓国を訪問する際、何が楽しみか聞いてみたところ、韓国のトップの高校生と交流出来ること。本校には美術のことで熱く語ることが出来る人がいないため、韓国の高校生と話す事が出来ること



↑吉澤さんに質問に答える吉澤さん。吉澤さんは、外交に關する大会に参加するので一時的に国家公務員という肩書きを持って韓国に行く。そのため、常に緊張感を持ちながら交流を深めたいと意気込みを語ってくれた。

しみらしい。他にも、韓国の代表は全員女子な上、日本の代表も女子十二人、男子二人と圧倒的に女子が多い。女子生徒と話が出来ると嬉しいと工業生らしいことを話してくれた。会話の方法は通訳を通して話したり、英語を使って自分達で何とか話をしたりするそうだ。しかし、現在、北朝鮮と韓国の問題があり、この国際交流自体が行われなくなってしまいう可能性もあった。

吉澤さんは、外交に關する大会に参加するので一時的に国家公務員という肩書きを持って韓国に行く。そのため、常に緊張感を持ちながら交流を深めたいと意気込みを語ってくれた。

### 注目の「若人」!

今回の「注目のこの人!」は、英語科、保健部長、そして、山岳部の顧問でもある水崎澄夫先生の素顔を紹介しよう。

水崎先生は、県内・県外のマラソン大会に出場したことがあ



↑水崎先生の自慢の化石

しかし、そんな水崎先生が好きなものは意外にも化石である。化石を語らせたら本校の中では右に出るものはいないくらい、化石に対する思いは熱い。自ら採れる場所へ行き、発掘もするほどである。自宅にも、アンモナイトや貝、植物などの化石がたくさんあり、今回の取材で持っ

てきた化石も、その一部である。先生に化石の質問をすると、とてもいきいきとした表情で答えてくれた。化石に興味のある生徒は是非話してみてもどうだろうか。



英語担当  
水崎澄夫先生

てきた化石も、その一部である。先生に化石の質問をすると、とてもいきいきとした表情で答えてくれた。化石に興味のある生徒は是非話してみてもどうだろうか。